

花の育種について

野菜花き試験場

切り花の繁殖方法は大きく二つに分けられます。タネで増やす種子繁殖と挿し芽、挿し木や球根の分球等で増やす栄養繁殖です。種子繁殖性の花は日本で育種しているものが多いのですが、栄養繁殖性の花はキクのような一部の例外を除き外国で育種されたものが主力となっています。

野菜花き試験場では現在トルコギキョウとリンドウの育種をしています。どちらも種子繁殖性です。育種の方法は色々ありますが、試験場では主に交雑育種法という方法を用いています。花色、花サイズ、花蕾数などの形質について遺伝的に異なる系統間で交雑し、得られた種子の中から優れた形質を持つ優良個体を選抜していく方法です。最近の品種はF1といって一代交配品種が主流となっていますが、これは交雑育種で得られた種子の中から優れた個体を選んで自家受粉等により花の形や色の揃った親を作っておき、様々な色や形をもった親の間で交配を行って優れたこども（F1雑種）が得られる親の組合せを選ぶやり方です。利点として雑種強勢*が期待できる、両親を持っていないと種子が作れないので品種の保護が容易である等があります。野菜花き試験場でもトルコギキョウの一代交配品種である長花交 34, 35, 36, 37 号の4品種を25年度に育成しました。興味がある方は野菜花き試験場までお問い合わせください。

*雑種強性：両親の交配により、どちらよりも優良形質な雑種を生み出すこと。



写真1 選抜中のトルコギキョウほ場

写真2 桃色、八重咲中大輪品種
「長花交 34 号」

担当者	内津 政直	電話番号	0263-52-1148
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)